

科学研究費助成事業（若手研究（S））研究進捗評価

課題番号	21672001	研究期間	平成21年度～平成25年度
研究課題名	海外引揚問題と戦後東アジアの地域変動に関する国際的総合研究	研究代表者 (所属・職) (平成26年3月現在)	加藤 聖文 (国文学研究資料館・研究部・助教)

【平成24年度 研究進捗評価結果】

評価	評価基準
A+	当初目標を超える研究の進展があり、期待以上の成果が見込まれる
○ A	当初目標に向けて順調に研究が進展しており、期待どおりの成果が見込まれる
A-	当初目標に向けて概ね順調に研究が進展しており、一定の成果が見込まれるが、一部に遅れ等が認められるため、今後努力が必要である
B	当初目標に対して研究が遅れており、今後一層の努力が必要である
C	当初目標より研究が遅れ、研究成果が見込まれないため、研究経費の減額又は研究の中止が適当である

(意見等)

本研究は、引揚者に対する口述記録及び引揚者団体等が所蔵する一次資料を収集し、国際的視野から引揚問題を追究する研究で、幾つかの重要な進展があり研究は概ね順調である。

例えば、朝鮮引揚者からの口述記録、満州・朝鮮・台湾・南洋・南方関係の一次資料及び引揚者団体所蔵資料等の収集に成果を挙げた。またロシア調査において、満州・北朝鮮・南樺太における残留日本人の送還に対するソ連側の動きを窺える文書の発見があり、スイス・スウェーデン調査においては、引揚問題における中立国の果たした実態が明らかになるなど、国際関係史からのアプローチが前進した。

本研究は、ドイツの引揚問題との比較的研究が不可欠であり、この点について研究の進展が望まれる。

【平成26年度 検証結果】

検証結果	<p>提出された「研究成果報告書」は過度に簡素で、特に外国調査でどのような研究体制のもとでどの程度の調査研究が実施され、いかなる史料が得られたのか、具体的記述がないため研究成果の検証ができない。日本人引揚者の調査研究では一定の成果が出ているが、比較対象とされたロシア（旧ソ連）やヨーロッパ諸国については、協力した研究者・研究機関名も十分に示されず、成果として得られた資料群も具体的説明を欠き、研究成果に関する記述もない。ドイツ東方帰還民研究は日本でも相当進んでおり、それらとの対比でどのようなオリジナルな研究調査がなされたのかが明記されるべきであった。</p>
B	